

## ■八尾市都市基盤施設維持管理推進会議（第6回）議事録

日 時：令和4年8月2日(火) 15:00～16:30

場 所：八尾市役所 西館 4階和室 1,2

出席者：近畿大学工学部 米田名誉教授、東山教授  
八尾市都市整備部 金子部長、米重次長、堀次長  
都市政策課 北尾課長  
都市交通課 杉島課長  
都市基盤整備課 岡崎課長、松井課長補佐  
土木管財課 藤原課長  
土木建設課 前田課長、村松課長補佐、三島係長、廣瀬  
土木管理事務所 鈴木所長  
八尾市下水道部 田中部長  
八尾市下水道部 西村次長  
下水道経営企画課 齊木課長補佐（林田課長の代理出席）  
下水道管理課 高萩課長  
下水道整備課 酒井課長

以上 20 名

### ◎次第

#### 1. 報告事項

(1) 八尾市と近畿大学との官学連携の取り組み（令和3年度）について

#### 2. 議事

(1) 令和3年度の維持管理（行動計画）の実績評価について [議案1]

(2) 令和4年度の維持管理（行動計画）の行動目標について [議案2]

(3) 令和4年度の八尾市と近畿大学との官学連携の取り組みについて [議案3]

#### 3. 意見交換

### ◎協議録（詳細）

#### 1. 報告事項

(1) 八尾市と近畿大学との官学連携の取り組み（令和3年度）について

- ・第5回八尾市都市基盤施設維持管理推進会議（リモート会議）の開催（R3.8.2）
- ・八尾市管理対象橋梁の維持管理に関する研修会の開催（R4.1.17）

#### 2. 議事

(1) 令和3年度の維持管理（行動計画）の実績評価について [議案1]

<事務局：説明>

- ・八尾市都市基盤施設維持管理基本方針を具体化させるにあたり、目標やスケジュールなど行動内容を示したもので、令和3年度の維持管理行動計画の実績評価を入力したものである。主だった実績について説明する。
- ・都市整備部の点検体制については、参考資料3にて実績集計表にてまとめている。

※各課の取り組みを代表して4課の所属長より報告。

【土木管財課】

- ・道路台帳システムについては、修繕工事の引継ぎ資料について担当者によるバラつきがあったため、諸元情報の統一化を図った。
- ・公園台帳システムについては、令和3年度にシステムの更新を行うとともに、新規公園の諸元データの入力を行った。
- ・山手13河川及び大正川に架かる橋の調査を再度行い、市道橋、個人橋、所有者不明橋の総数の把握を行った。

【土木建設課】

- ・八尾市と近畿大学理工学部との官学連携の取り組みとして、推進会議を1回、近大協議を2回実施した。
- ・市職員（都市整備部6課）による橋梁の維持管理に関する研修会（R4.1.17）を実施した。
- ・橋梁（15m以上）の点検について、大阪府都市整備推進センターへ一括発注を行った。
- ・修繕工事は8橋実施し、Ⅲ判定橋梁については23橋中22橋の修繕が完了した。

【土木管理事務所】

- ・橋梁の日常点検（440橋）を市職員にて実施し、簡易修繕を実施した橋梁は16橋であった。

【下水道管理課】

- ・広域化・共同化検討会を実施し、その過程の中で災害時における復旧支援協力を協定の締結を行った。
- ・八尾市公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、計画的に点検調査（29.5km）を完了した。

（2）令和4年度の維持管理（行動計画）の行動目標について〔議案2〕

※各課の取り組みを代表して4課の所属長より報告。

【土木管財課】

- ・令和3年度に道路台帳システムの修繕データの諸元情報の統一化を図ることができたため、令和4年度は順次台帳の入力を進めて行く。
- ・不明橋の管理方針について他市の事例の調査を行うとともに、個別の不明橋については周辺や町会への聞き取り、現地への看板設置等も含めて検討して進めて行く。

【土木建設課】

- ・道路照明灯については今年度から点検調査業務を発注予定であり、随時予算化していく予定である。
- ・15m未満の橋梁については点検調査業務を発注予定である。
- ・公園の長寿命化計画に基づく点検調査業務を発注予定である。

【土木管理事務所】

- ・維持管理業務を計画的に行っていく予定である。
- ・道路照明灯については灯具についてリース契約の今後の方針を定めていく必要がある。
- ・街路樹については、昨年度に道路植栽の管理方針を策定しており、各路線の管理水準を定めるため、個別施設計画を策定する予定である。
- ・自由通路については適正な維持管理を行うため、管理者協議を含め検討を行っていく。

【下水道管理課】

- ・民間との新たな維持管理手法の検討について、先進都市の聞き取り等を行っていく予定である。
- ・八尾市公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、今年度は11km点検調査を予定している。

## ○意見・質疑

- ・所有者不明橋梁について、通過交通がある橋梁はあるか？（米田名誉教授）  
⇒私道に架かっている橋梁であるため、放置状態である。（藤原課長）  
⇒水路幅自体が2m程度の橋梁も多いため、通過交通の影響は少ない。（藤原課長）
  
- ・どこかで管理方針を変えていかなければ財源は続かないのでは？（米田名誉教授）  
⇒できる限りのものやっけていく方針である。（鈴木所長）  
⇒住民からのクレームを受けてからの事後対応が主流となる？（米田名誉教授）  
⇒事後対応と予防保全の区分けが必要となってくる。（金子部長）  
⇒人命にかかわる話も含まれてくるため、財源の使い道を明確にすべきである。（米田名誉教授）  
⇒管理物件については、減らしていく方向で検討しなければならないため、うまくマスコミを味方につけて統廃合に舵をきる必要も今後必要となってくる。（米田名誉教授）  
⇒橋梁の統廃合の検討は国からの通達もあり、検討を行っていく必要があると考える。（前田課長）
  
- ・京都の北部の方では、将来の就職を地元で考えてもらう活動を行っている。八尾市ではそういう取り組みはあるか？（東山教授）  
⇒転職を高いハードルとは思っていない世代であるため、定職は難しい時代である。（田中部長）  
⇒土木業界はニーズに需要と供給のバランスが破綻している。（米田名誉教授）  
⇒今後は土木職に捕われず、幅広い分野から募集を行う必要があると考える。（米田名誉教授）  
⇒試験内容等についても、周辺の市町村の動向を確認しながら検討していく必要がある。（金子部長）

## (3) 令和4年度の八尾市と近畿大学との官学連携の取り組みについて

- ・橋梁日常点検の実施（12月～2月）
- ・橋梁点検の現場実践をテーマにした「橋梁点検研修」の実施（11月）

## 3. 意見交換

### ○飛行場地下道雨水貯留施設の点検手法について

- ・元々トンネルであった道路を貯留施設とし、上部道路に通過交通があります。点検手法および管理手法についてご教授いただきたい。（高萩課長）  
⇒致命的な損傷を重点的に管理する必要がある。現状の状況はいかがですか？（米田名誉教授）  
⇒漏水は多少あり。致命的な損傷はないと把握している。（高萩課長）  
⇒トンネルとしての維持管理？道路としての維持管理？耐荷力はわかりますか？（米田名誉教授）  
⇒構造形式を教えてください。床版の構造や土被りの有無等はわかりますか？（東山教授）  
⇒戦争時代は飛行機が通過していたため、耐荷力は大きいと思われる。（高萩課長）  
⇒土被りはあると思われる。そんなに厚みはない可能性が高い。（鈴木所長）  
⇒ひび割れの発生状況等、床版の下面の状態は確認している？（米田名誉教授）  
⇒床版の状態は確認できていない。（高萩課長）  
⇒ボックスカルバートの頂版の検討の考え方で良いのではないかとと思われる。（米田名誉教授）